

体育科学習指導案

広島市立〇〇小学校
教諭 〇〇 〇〇

- 1 学年・組 第5学年〇組
- 2 日 時 平成26年11月〇日
- 3 単 元 名 「はげしい動きの世界」(表現運動)
- 4 単元について

(1) 表現運動は、中学年を「表現」、「リズムダンス」で、高学年を「表現」、「フォークダンス」で内容を構成している。これらの運動は、自己の心身を解き放して、リズムやイメージの世界に没頭してなりきって踊ることが楽しい運動であり、互いの良さを生かし合って仲間と交流して踊る楽しさや喜びを味わうことができる運動である。

高学年の表現は、いろいろな題材から表したいイメージをとらえ、即興的な表現やひとまとまりの表現で踊ることをねらいとしている。自己の経験やイメージから動きを工夫したり、友達と組み合わせたりすることができる楽しい運動である。また、表現運動はイメージしたことを動きに表すことができる豊かな表現力を身に付けたり、運動中に体のバランスを保つ、巧みに動くなどの調整力を身に付けたりすることができる。

本単元では、題材の特徴をとらえて、表したい感じを高低や速さなど変化をつけて即興的に表現する力や、場面をつなげて「はじめ—なか—おわり」の構成を工夫して表現する力が身に付くと考える。その中で、そのものになって動くことの面白さや、動きを工夫することの楽しさを感じられると考える。

(2) 本学級はどの学習においても意欲的に取り組む児童が多い。体育の学習においても、25人の児童が体育の学習が「好き」「どちらかといえば好き」と答え、意欲的である。表現運動においては、学年はじめの運動会で「南中ソーラン」の動きを経験しており、音楽やリズムに合わせていろいろな動きをすることに対して、22人の児童が肯定的に答えていた。しかし、イメージを表す動きを表現することには、15人の児童が「どちらかといえば好きでない」、あるいは「好きでない」と答えている。否定的に答えている児童の理由としては、「はずかしい」「人前でするのは好きではない」「音楽がないと難しい」「イメージを表すのは苦手」「どのような動きすればよいか分からない」などが挙げられた。音楽やリズムに合わせて決められた動きをすることは、動き方を指導することでダイナミックな動きをしようとすることができた。しかし、数名の女子児童は、アンケートや野外活動のファイヤーなどから、これまでに表現運動の経験があまりないこともあり、即興的に体を動かすことに苦手意識を持っている様子がある。

グループ活動では、協力して活動することのできる児童がほとんどである。グループ活動を重ねることによって、動きのコツや友達の良い動きを見付けることができるようになり、自分の動きに取り入れようとする姿が増えてきている。しかし、数名は友達とかかわることが苦手であり、より良く技能を習得したり思考を深めたりすることに課題がある。グループで活動させることによって、運動が苦手だった児童も楽しく運動を行うことができるようになってきていることから、さらにかかわり合う場面を増やし、技能面、思考面を高められるようにしたい。

(3) 本単元では、児童が楽しんで表現運動に取り組めるよう、準備運動を工夫したり、良い動きや人と違う面白い動きを積極的に賞賛したりして、恥ずかしがらず自信を持って表現するよう指導していきたい。

グループで題材を決め、動きづくりをする中で、友達と協力したり、友達の良い動きを認めたりする活動をさせる。また、きょうだい班で動きを見せ合い一言プレゼントをする場を設定することで、良い動きを見付けたり、自分やグループの動きに取り入れれたりできるようにする。友達の良い動きを見る視点として、「ロリズム」「空間」「高低」「早さ」などの表現する時のポイントを示すことで、良い動きを見付ける手がかりとなるようにする。グループで練習する場面では、遅延再生ができるノートパソコンを活用し、動画で自分達の動きを確認し、よい点や課題を見付けられるようにする。お互いを見合う場や遅延再生装置を活用して相互評価や自己評価ができるようにし、さらに技能向上を図る。二人組やグループで活動することで、お互いが動きを見たり良い点や課題を見付けたりすることができ、思考が深まり、技能が身に付くことができると思う。

5 単元目標

- 「はげしい動き」から表したいイメージをとらえ、即興的な表現や簡単なひとままとりの表現で踊ることができるようにする。【技能】
- 「はげしい動き」の表現に進んで取り組み、互いの動きの良さを認め合い助け合って練習や発表したり、場の安全に気を配ったりすることができるようにする。【態度】
- 良い動きを知り、自分やグループの課題に応じた動きを選んだり、自分やグループの良さを生かす動きを見付けたりすることができるようにする。【思考・判断】

6 評価規準

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「はげしい動き」の表現に進んで取り組もうとしている。 ・ 約束を守り、友達と助け合って練習や発表をしようとしている。 ・ 運動する場の安全に気を配ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 良い動きを知り、自分やグループの課題に応じた動きを選んでいる。 ・ 自分やグループの良さを生かす動きを見付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「はげしい動き」から表したいイメージをとらえ、即興的な表現や簡単なひとままとりの表現で踊ることができる。
学習活動に即した評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「はげしい動き」の表現に進んで取り組もうとしている。 ・ 互いの良さを認め合い、助け合って練習や発表をしようとしている。 ・ 練習や発表をする場の安全に気を配ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「はげしい動き」のイメージから良い動きを見付け、自分の動きに取り入れている。 ・ 気に入った「はげしい動き」のイメージを選び、表したい感じを強調できるように、動きに変化と起伏を付けて動き方を工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「はげしい動き」からいろいろなイメージをとらえ、ひと流れの動きで即興的に踊ることができる。 ・ 「はげしい動き」のイメージの表したい感じを「はじめーなかーおわり」を付けた簡単なひとままとりの動きにして踊ることができる。

7 単元の計画

次	時	指導過程		
		主な学習活動	教師のはたらきかけ・かかわらせ方	主な評価の観点
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ オリエンテーション ・ 体ほぐしの運動をする。 ・ 「はげしい」からイメージを出し合う。 ・ 学習の進め方を知る。 ・ いくつか即興的に体を動かしてみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 楽しい雰囲気をつくる。 ○ 「はげしい」からイメージしたカードを事前に作っておく。 ○ 学習の進め方や学習のきまり、グループ内での役割分担を確認させる。 ○ 即興的に動く時のポイントとして、リズムや高低の変化、空間の使い方、早さ、強弱などを提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「はげしい動き」の表現に進んで取り組もうとしているか。 【関心・意欲・態度】 ○ 練習や発表をする場の安全に気を配ろうとしているか。 【関心・意欲・態度】
第二次	2 3 (本時)	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">はげしい動きのイメージを、ひと流れの動きで即興的に踊る。</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 小テーマから特徴的な動きをいくつかみんなで踊る。 小テーマ：生活・自然 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習課題を確認させる。 ○ 教師のリードで急変する場面を入れながら即興的に踊るようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 互いの良さを認め合い、助け合って練習や発表をしようとしているか。【態度】

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小テーマからのイメージをひと流れの動きにして踊る。 ○ 一番気に入ったひと流れの動きを見せ合う。 ○ 学習のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループで好きなイメージを選び、はげしい感じや急変する感じを動く時のポイントを使いながら即興的に踊るようにさせる。 ○ 動きのはじめとおわりをつけるようにさせる。 ○ 良い動きができているグループに発表させ、良いところを見付けさせる。 ○ 動きをきょうだい班で見せ合い、良い動きを見付け一言プレゼンをするようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「はげしい動き」のイメージから良い動きを見付け、自分の動きに取り入れているか。 【思考・判断】 ○ 「はげしい動き」からいろいろなイメージをとらえ、ひと流れの動きで即興的に踊ることができたか。【技能】 	
第三次	4	好きなイメージを選び、グループでひとまとまりの動きにして踊る。		
	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 表したいイメージが強調されるように、ひとまとまりの動きにして踊る。 ○ 見せ合って感じを確かめ合い、アドバイスし合う。 ○ 学習のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習課題を確認させる。 ○ 「はじめ—なか—おわり」の三つの場面でひとまとまりの動きを考えさせる。また、一番表したい場面が強調されるように工夫させる。 ○ 遅延再生装置の場を設定し、グループの課題を見付け、さらに動きに変化をつけていくようにさせる。 ○ 良い動きができているグループに発表させ、良いところを見付けさせる。 ○ めあてが達成できているかどうかに気を付けて見るようにさせる。 ○ 工夫したところを伝えてから発表し、良さや課題を見付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 気に入った「はげしい動き」のイメージを選び、表したい感を強調できるように、動きに変化と起伏を付けて動き方を工夫しているか。 【思考・判断】 ○ 「はげしい動き」のイメージの表したい感じを「はじめ—なか—おわり」を付けた簡単なひとまとまりの動きにして踊ることができたか。 【技能】
	6	発表会をする。		
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 発表し、単元のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全グループに発表させ、互いの良さやのびたところを認めるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「はげしい動き」の表現に進んで取り組もうとしているか。 【関心・意欲・態度】 ○ 互いの良さを認め合い、助け合って練習や発表をしようとしているか。【態度】

目標	「はげしい動き」の感じをとらえ、即興的な表現で踊ることができる。(技能)	
学習活動	教師のはたらきかけ	評価の観点と評価方法
1 準備運動をする。	○ 楽しい雰囲気でリラックスして始められるようにする。	
2 学習課題を知る。	「はげしい動き」のイメージをふくらませて、思いつくままに踊ろう。	
3 小テーマからの特徴的な場面や動きをいくつか選んで即興的に踊る。	○ 「リズム」「空間」「高低」「速さ」を意識させ、はげしい感じが出るように工夫させる。 ○ 前時の動きを思い出して動くように声をかける。 ○ ポイントを意識して動いているか声をかける。	○ いろいろな題材から表したいイメージをとらえ、即興的な表現で踊ることができたか。【技能】
4 小テーマからのイメージをグループでひと流れの動きにして踊る。	○ グループで好きなイメージを選び、はげしい感じや急変する感じを動く時のポイントを使いながら即興的に踊るようにさせる。 ○ 動きのはじめとおわりをつけるようにさせる。 ○ 遅延再生装置の場を設定し、グループの課題を見付け、さらに動きに変化をつけていくようにさせる。 ○ ポイントを意識して動いているか声をかける。 ○ 良い動きができているグループに発表させ、良いところを見付けさせる。	○ 互いの良さを認め合い、助け合って練習や発表をしようとしているか。【態度】
5 一番気に入ったひと流れの動きを見せ合う。	○ 動きをきょうだい班で見せ合い、良い動きを見付け一言プレゼンをするようにさせる。	
6 学習の振り返りをする。	○ 本時を振り返り、グループで工夫したことを評価する。	